

スローテンポ通信

第 69 号

2023年7月25日

発行:スローテンポ書店

〒323-0023 小山市中央町3-7-1 ロブレ地階

☎ 0285-32-7211

Eメール usagimokamemo@gmail.com

ブログ『うさぎもかめも』

<http://usagimokamemo.blog.fc2.com/>

◎今注目の本

○『我らが願いは戦争』

チャン・ガンミョン著 小西直子訳

新泉社 2021年 ☆☆☆☆☆

今、北朝鮮が崩壊したら、どうなるか。南北統一という理想が現実化したら、人々の暮らしや社会はどうなるだろうか。朝鮮半島にどんな変化が起きるか。この本は、それをリアルに描いた。韓国で話題となり数々の文学賞をさらった。映画化も進められている。

◎ 参加するだけで、本を読みたくなる読書懇話会

毎月第4土曜日午後3時～5時

本を紹介の後、自由に話し合います。参加無料、準備不要、出入り自由、発言するしないも自由、とんでも発言歓迎！

次は2023年8月26日(土)

紹介する本は

『我らが願いは戦争』

今注目の本の紹介文も参照してください。

タイトルに驚く人が多いだろう。

世界中が平和を願っている。中でも日本人は、「戦争は悲惨だから、絶対にいけない。世界に向かって平和主義を訴えよう」とみんなが思っている。

「それなのに、戦争を願うなんて、何を言ってるんだ！」と反発を招くことだろう。そんな人たちにこそ、考えてもらいたい。

《話し合いのテーマ》

- ・ どのような人が戦争を願うのか？
- ・ 「戦争反対」と「ウクライナ支援」は矛盾しないか？

なぜ日本人は考えなくなったのか？

日本人は考えなくなった。考えなくなったことにも気付いていない。目先の損得で行動し、他人に関心がない。

だから人と真剣に話をするのも、本を読むこともなくなった。みんなが考えないから、自分も合わせる。そうして考えない人がますます増えていった。

高齢の母が脳出血で入院した。救急搬送から入院までの連係プレーは見事だった。家族はただ「お願いします」をくり返すだけだった。まるでベルトコンベアに乗せられたようだった。

再出血もなく病気が落ち着いてきたとき、医療連携の担当者から、リハビリの病院に転院するという話があった。転院先の候補をあげ、電話するよう指示された。

候補の一つに電話予約をして、電話面談となった。1時間近くかけて、細かな説明があった。

母の血液検査の結果を知っていて「良くなっているので2～3日中にでも入院できます」と言って続けた。

転院のときは介護タクシーを使う、家族も2人ほど同乗できる。転院のときに用意するものはこれこれだ、などと、すでに転院が決まったかのように話す。

病気になっても、コースが設定されている。そこから外れて、独自路線を押し通すことは可能だろうか。時間と労力と根気が必要だろう。

ベルトコンベアに乗つかれば苦労はない。多少の不満があっても、まあまあ当たり前の医療にありつくことができる。独自路線を貫いたとしても、結果がよいとはかぎらない。結局、何も考えないのが無難でストレスが少ない。

買い物や旅行も、あまり考えずに、流行に従うか、業者のお勧めに従うのが、らくちんで無難だ。

予防接種をするしないも、マスクをするしないも、世間の空気に従う。選挙のときも、あまり考えずに人気の候補者に投票する。

いちいち自分で考えて、世間の流れに抵抗していたのでは、この日本を生き延びられない。どうして、こんな日本になってしまったのだろうか。

仕事中に入院先の病院から電話があった。口腔内が乾燥している。ケアしなければならぬ、と長々と説明する。

要するに、保湿剤を業者からのリースを利用すると高くつくので、家族がクスリ屋で買ってきて病院に届けてくれ、ということだ。

怒りが爆発した。

「あんた、自分で考えて言ってるのか。栃木のクスリ屋で保湿剤を買って、大阪の病院まで届けよと言うのか！」

「負担金が出てくるので、一応、家族に伝えて意思を確認することになっています。」

「こんなことで文句を言う家族がいるのか」

「文句を言う家族も居ますから」と言う。

「常識的なことはそちらの判断でやってくれ。後で文句は言わないから。」

何も考えずに指示通りにしゃべる。それも、患者や家族のためではなく、病院がクレームを言われたいためである。

病院の使命は、病気を治すことではないか。患者が中心であるはずだ。

日本の病院は、病院中心になってしまった。コロナ禍では「病院を守るために患者は来ないでくれ」と言っていた。

病院は、医師や看護師を教育する。その基本にあるのが、上意下達の徹底である。そこで育った職員たちが病院を担っている。だから、自分で考えることなく、まるでロボットのように支持通りに行動する。

病院だけではない。大企業や役所も、学校や大学も、マスコミや書籍流通の業界も同じだ。日本では組織や団体が人間をロボットにするのである。

考える人たちは、排除されていく。この狂った日本をどうするか。

スローテンポ書店は考えてきた。そして、取り組んでいる。

懇話会や読書会では、考える機会を提供している。各々の悩みや困りごとから共通課題を見つけ出し、課題解決型で話し合う。参加者が自分で考え自分の意見を述べる。

考えない人たちからは評価されないが、考える人は少しずつ増えている。

(ブログより抜粋)



本好きも本嫌いも

本のよさを再発見する！

スローテンポ書店

小山駅西口 ロブレ地階

オープン：火、木、土 13時～19時

祝日はお休みです。



日本を見つめ、世界を見つめ、自分を見つめる。本があなたを待っています。

☆すろーてんぽ懇話会

悩みごとや困りごとを出してください。課題解決型で話し合います。悩みごとのある人もない人も、どなたも歓迎！
第2土曜日 午後3時～5時、参加無料。

☆文章懇話会

文章は最も正確で強力なコミュニケーションツールです。自分で書いた文章を提出してください。本人にしか書けない文章に仕上げます。その過程で自分自身を再発見します。

第2木曜日午後3時～5時、8月から参加無料になりました。